

外国語の選択について

外国語は、この「外国語の選択について」を熟読し、UCARO 上で手続きをしてください。選択必修外国語によってクラス編成を行います。選択必修外国語を選択するにあたっては、3 頁以降の紹介文を参考にしてください。UCARO 上での手続き方法については次頁に記載があります。

【設置外国語】

1. 情報コミュニケーション学部では、次の言語を設置しています。
 - (1) 必修外国語：「英語」
 - (2) 選択必修外国語：「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「中国語」「韓国語」「タイ語」
- ※ 母国語は希望できません。例) 中国国籍の方は中国語を選択できません。
- ※ 右の QR コードから各言語の紹介動画が視聴できます。
- 3 頁以降の紹介文と併せて、こちらも参考にしてください。



外国語科目選択ガイダンス

【必要修得単位数】

2. 外国語は、英語と選択必修外国語（1 言語）を次のとおり修得しなければなりません。
 - (1) 英語：6 単位
 - (2) 選択必修外国語：4 単位

【履修について】

3. 指定された授業を履修します。
 - (1) 1 年次は、予め「英語」と「選択必修外国語」の 2 言語が登録されています。
 - (2) 原則として、英語は 1・2 年次の 2 年間で、選択必修外国語は 1 年次に必要単位を修得するよう履修します。

【クラス編成】

4. 皆さんが選択した「選択必修外国語」によってクラス編成を行います。クラス編成の都合上、やむを得ず、履修言語が希望に添えない場合もあります。

【その他】

5. 全学部共通の「学部間共通外国語」科目を履修することで、ロシア語、イタリア語、アラビア語、ギリシャ語、ラテン語といった様々な言語を学ぶことができます。詳しくは、4 月のガイダンスで案内される「学部間共通外国語シラバス」を確認してください。

※ 次頁の「**選択必修外国語**」希望順位の入力方法をよく読んで

UCARO 上で入力をしてください。

「選択必修外国語」希望順位の入力方法

選択した外国語によってクラス編成を行います。希望する外国語が第1希望から第3希望（第2希望）まで決定しましたら、[UCAROの「本人情報」から入力してください](#)。なお、UCAROは手続きを開始してから30分以上操作しない場合、自動的にタイムアウトになりますので、注意してください。

●選択必修外国語●

「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「中国語」「韓国語」「タイ語」

希望科目名を下のパターンにならって、各欄に入力してください。

下の通り、入力パターンは全部で**3通り**あります。これ以外のパターンはありませんので、必ずいずれかのパターンで入力してください。

【パターン1】「ドイツ語」を是非とも履修したい場合

第1希望でドイツ語を選択し、第3希望で「第1希望を是非とも履修したい」を選択してください。定員の問題でドイツ語が履修できない場合の希望を第2希望で選択してください。

希望順位	第1希望	第2希望	第3希望
	ドイツ語	中国語	第1希望を是非とも履修したい

【パターン2】「ドイツ語」でも「スペイン語」でもどちらでもよい場合

第1希望でドイツ語、第2希望でスペイン語（逆も可）を選択し、第3希望で「第1希望でも第2希望でもどちらでもよい」を選択してください。この場合、原則として、より少人数クラスになる外国語が履修登録されます。

なお、クラス人数に大差がない場合は、第1希望の言語を優先します。

希望順位	第1希望	第2希望	第3希望
	ドイツ語	スペイン語	第1希望でも第2希望でもどちらでもよい

【パターン3】「タイ語」でも「韓国語」でも「フランス語」でもよい場合

第1希望でタイ語、第2希望で韓国語、第3希望でフランス語などを入力してください。この場合、原則として、より少人数クラスになる外国語が履修登録されます。なお、クラス人数に大差がない場合は、第1希望又は第2希望の言語を優先します。

希望順位	第1希望	第2希望	第3希望
	タイ語	韓国語	フランス語

～選択必修外国語紹介～

ドイツ語を学ぶこと

ドイツ語の学習には、大きく分けて三つの意味があります。

第一にドイツ語を学ぶことを通して、ドイツ語圏の文化や社会を知ることができます。ドイツ語はドイツ（連邦共和国）でだけ話されているわけではありません。オーストリア、スイス、リヒテンシュタインなどでも公用語として話されており、フランス東部（アルザス地方）やイタリア北部（南チロル）にもドイツ語を母語にする人々が住んでいます。みなさんもテレビでアニメを見ていて「**スイスに暮らすハイジはどうしてドイツ語を話しているの？**」と思われたことはありませんか。ドイツ語はヨーロッパの中部の広い地域で話され、話者数は約1億人にのぼり、文化も多種多様です。そのため、すでによく知っている文学作品や音楽が、実はドイツ語圏で生まれたことを知って、後から驚くこともあります。**グリム童話、『モモ』（M・エンデ）、年末によく歌われるベートーヴェンの交響曲第九番**の歌詞などがそうです。工業製品でもドイツ車はその高い性能と優れた耐久性、安全性によって信頼され、世界中で広く愛用されています。**ベンツ、BMW、ポルシェ、フォルクスワーゲン**、これらはすべてドイツ車です。ドイツ語を学ぶことで、ドイツ語圏の文化を知るだけでなく、そこで生まれた製品にこめられた「**ものづくり**」に対する姿勢もよりよく理解できるでしょう。



第二にドイツ語を学ぶことで、ドイツ語で書かれたさまざまな文献（**文学をはじめ、哲学、社会学、法学、経済学**）を原語で読めるようになります。もちろん、すぐにスラスラとはいかないかもしれませんが、重要なタームを原語で知るだけでも理解への大きな一歩になります。「**ドイツ語は哲学をするために最も適切な言語である**」と言った哲学者もいました。大学で勉強したい分野が上記の領域に入っているならば、ぜひドイツ語の履修をお勧めします。

第三に戦後の日本の歴史と将来を考える上で、ドイツの歴史と現在の情勢を学ぶことは重要です。両国は第二次世界大戦の敗戦国としての責任問題、戦後復興、アメリカとの関係、環境問題、国連での地位など、多くの類似した問題に取り組んでいます。原発に対する政策の違いなどから、**日本社会の別の可能性**をドイツから学ぶこともできるでしょう。ドイツ語の知識を通して、このような比較考察も可能になります。

最後に、なによりも「**ドイツ語は楽しい！**」のです。ドイツ語ほど美しい響きを持ち、深い意味と豊かなイメージをもつ言語は他にありません。外国語が理解できれば、精神生活がより豊かになります。「これ、ドイツ語だったのか」という驚きと、「これドイツ語でなんというのかな」という好奇心が広がるでしょう。最近では情コミからも**ドイツ語圏の協定校に留学する**学生も出てきています。**留学も視野に入れて、さあ一緒に楽しくドイツ語を学びましょう！** 情コミではドイツ語履修者向けのクリスマスパーティーを行うなど、楽しい催しがいっぱい。絶対の自信をもってお勧めします。

～選択必修外国語紹介～

フランス語について

皆さん、海外に航空便を出す時に貼る青いシートにお気づきですか？そこには「航空郵便」という日本語とともに、必ずフランス語で「Par Avion」と書かれています。無論、日本郵政が趣味で使っているわけではありません。

フランス語は、英語の次に使用頻度の高い国連第一公用語として知られています。我が国においても、国際会議場を始めとして、外務、郵政、運輸、通産関係で使用されています。日本に駐在し、在日の欧州の商工会議所として最大のフランス商工会議所には611社以上(2022年度)が会員登録しており、近年増加傾向がみられます。

皆さんもお気づきのはずですが、オリンピックやワールドカップなどスポーツの祭典において、開催地の言語、英語に続いてフランス語での放送がなされます。

以上のように、フランス語は公用語として幅広い役目を担っているのです。理由として、五大陸で使用されている言語であるからですが、文法が明快で、契約などの際に間違いを生じないこと、単語や言い回し、文章表現が豊富で、同様に語彙の豊富な日本語でさえ完璧に訳せること、があげられます。

日本人は幕末の頃から数々のフランス語を日本語化してきました。一番頻度が高く、それをなくしては生活に支障をきたすのが「メートル」です。その他日本人が気づかないうちに日本語として使っている単語は：ゴム、シネマ、デビュー、パン、パンタロン、ミクロ、メトロ、ランプ等があり、それらを探していくことで、学生の皆さんには数多くの発見があるはずです。

情報コミュニケーション学部では、一年次においては、基礎として、会話・読本中心の「フランス語A I・II」と文法中心の「フランス語B I・II」を必修として学びます。二年次に、よりフランス語を学びたい人は「フランス語演習」という選択科目で勉強します。

また、フランスの言語のみならず、言語文化を学ぶために、一・二年次の「クリエイティブ・コミュニケーション(フランス)」という演習の中で、フランスの言語文化の特徴、多様性をファッションの視点から学びます。また、一・二年次は、非英語圏の多種多様な地域の文化と比較しながらフランス文化を学ぶ「地域文化論(基礎)」、そして、三・四年次では「情報・伝達」という観点からフランス社会の諸様相を様々な角度から考察し、各自がフランスをめぐる諸問題の分析、解決案、フランス文化の視点を多角的に考える力を養うことを目的とする「地域文化論」も設置されています。

その他、他学部の仲間と共に、夏休みには、9月初旬に学部間共通外国語で施行されるネイティブから学ぶ夏期講習、また、国際教育事務室で行っている語学研修も実施が予定されています。また、フランス語各種検定試験も、学部から検定費が一部援助され、受験することができます。

複数の外国語習得が求められるグローバルコンテクストにおいて、多くの国で使用されるフランス語を学び、文化の多様性を知り、視野、可能性を広げましょう！

～選択必修外国語紹介～

スペイン語について

スペイン語は国際社会において日に日に存在感を増している言語です。この言語を学ぶことは、数年後には世界に羽ばたこうとする皆さんにとって、きっと意味あるものとなるでしょう。

スペイン語は三億数千万人の母語話者を抱える言語で、人口規模では世界で五本の指に入ります。この言語が公用語になっている国々はヨーロッパ、アフリカ大陸、南北アメリカ大陸の二十数ヶ国に及びます。そしてこのスペイン語話者はグローバル化の波に乗り世界中に広がっています。皆さんも北米におけるヒスパニックのこと、日本におけるラテンアメリカ出身の人々のことなどを聞いたことがあるでしょう。さらに、サッカーをはじめとしたスポーツ界や、映画などの芸能界におけるスペイン語話者の活躍もきっと目にしたことがあるでしょう。スペイン語のこうした状況は人々の学習意欲もかき立てます。残念ながら日本では、いまだこの言語の学習者は他の言語に比べて多いとは言えないかもしれません。しかし世界に目を向ければ、学習者数は英語に次いで二番目に多く、アメリカ合衆国においては最も学習されている言語です。既に英語をある程度身につけた皆さんが、次なるコミュニケーション手段を探し求めるとすれば、それはスペイン語です。

スペイン語は、イタリア語やフランス語と同じく、ラテン語を起源とする言語です。そしてイベリア半島が経験した複雑な歴史ゆえに、その言語の中にはアラビア語を起源とする語彙を含むほか、ラテンアメリカでは先住民諸語の影響もあります。さらに現代においては英語からの語彙の流入も見逃せません。それでも文法は大航海時代から今に至るまで整理され続けており、明解な姿をしています。この言語には様々なヴァリエーションがあるものの、皆さんが学ぶスペイン語は基本的にどこでも通じます。そしてスペイン語は、意欲をもって取り組めば、決して習得が難しい言語ではありません。日本語と似た母音の体系やどこかで見たことのある語彙、比較的単純化された語形変化は、きっと皆さんが学習を進め、実際に使っていく上で助けとなることでしょう。確かに一つの言語を学ぶためには時間と情熱が必要です。しかし、スペイン語にはそうした価値があります。毎回の授業はきっと新しい言語を学ぶ楽しさ、まだ見たことのない文化を知る喜びに溢れていることでしょう。

一年次のスペイン語の授業は、話し、読む力をつけるスペイン語AI・AII、そして文法と作文に焦点をあてるスペイン語BI・BIIがあります。一年間で現在・過去・未来のことを述べ、理解できるようになることが目標です。二年次にはそれらを発展させ、相手の考えや気持ちを理解し、自らの考えを発信する力を養います。そのようにして学んだ言語を使う機会は、大学の外にも広く、地球規模で広がっています。皆さんと教室でお会いできることを楽しみにしています。

～選択必修外国語紹介～

中国語について

日本にはたくさんの中国人がいます。古くから住んでいる人もいれば、最近仕事や留学などで来た人たちもいます。日本にいる外国人総数(登録外国人のみ)の約30%、留学生の約40%が中国から来ています。もちろん自分の将来のためやキャリアのために来日する人もたくさんいますが、日本の文化に興味を持っている人たちも大勢います。現代の中国の若者は日本のアニメやテレビドラマ、映画などについてリアルタイムでよく知っている者も多く、その博識ぶりには驚かされることも多いです。

みなさんは現代中国についてどんなことを知っていますか。「近いけれどよくわからない国」という人もいれば、日本のドラマや映画に詳しい中国の若者に負けなくらい中国のドラマや映画、スターたちを知っている！という人もいるかもしれませんね。そして世界で活躍する中国の俳優や映画監督の名をご存知かもしれません。ハリウッド女優の章子怡(チャン・ツーイー。彼女の名前はチャン・ツイイーと表記されることが多いようですが、ツイよりもツーの方が原音に近い気がします)や張芸謀(チャン・イーモウ)監督。世界の有名な映画賞を受賞したことのある賈樟柯(ジア・ジャンコー。通例「ジャ・ジャンクー」と表記されています)監督の名を知っている方も多いでしょう。彼らの名前は原音に近い形でカタカナで表記されるので、音を聞けば「ああ、あの人」とすぐにわかるかと思えます。

では、Mao Zedong、Deng Xiaoping、Xi Jinping…誰だかわかりますか。大学生になって英語をがんばろう、という皆さんも多いかと思えます。英語ではもちろん、中国の方の名前もアルファベット表記になります。正解は、順に毛沢東、鄧小平、習近平です。漢字にすれば知っている！という方も多いでしょう。しかし、英語の記事を読んでいて、このような名前を見ると、多くの日本人は、誰だろう？と誤ってしまいます。中国語を学習すると、アルファベット表記されている名前を、漢字に置き換えることが容易になります。

さて、明治大学は中国語を学び、中国の文化に触れるのによい環境に恵まれています。たとえば駅の表示を見て下さい。「切符うりば」の表示の脇には「售票处」という中国語も小さく併記されているでしょう。東京は働きに來たり学びに來たりしている中国人の数が多く、中国語による案内表示もよく見かけます。通学するだけでいろいろと中国語の単語が学べるのです。車内で中国人同士が会話しているのを耳にすることもたびたびでしょう。人の多い東京では映画の単館興行が可能で、東京でしか上映されない中国映画もたくさんあります。また、駿河台キャンパスから歩いて行ける範囲内に、中国書専門店もあります。これは明治大学ならではの環境です。

中国語を選択する人は、まず1年生の春学期で興味のある中国の映画スターや歴史上の人物の名前がどう発音されているのか調べてみてください。それから徐々に、中国についての情報を、日本のマスメディアを経由せずとも、直に受け取れるようになってください。そして、中国語を学ぶことで、ぜひ今の、ありのままの中国に一步でも近づいてみてください。

～選択必修外国語紹介～

韓国語について

現在、日韓関係は悪化しています。しかし、それは政治の場であり、日常や文化での交流、とくに K-POP のシーンは大人気です。今後も言葉を通じて、冷静かつ良好な関係を保っていきけるはずです。

みなさんの家の冷蔵庫に、いつもキムチがあるという人が意外と多いのではないのでしょうか。プルコギやビビンバも、居酒屋や食堂の定番メニューになりつつあります。このように私たちの生活の中に自然と定着している韓国語（それぞれの国の立場から韓国で使用されている言語は「韓国語」、北朝鮮で使用されている言語は「朝鮮語」と呼ばれていますが、名称の違いであり、同一の言語です）は、日本語とよく似ていて、日本語を母国語とする人にとって、とても学習しやすい言語だといわれています。たとえば「저(私)는(は) 대학교(大学)에서(で) 영어(英語)를(を) 공부하고 있습니다. (勉強しています)」のように、日本語と語順がほぼ同じで、述語が文の最後に来るのも、助詞の使い方も日本語と非常に似ています。

このような点から、語順を考えながら話す必要がなく、単語を日本語とほぼ同じ順序でつなげていけば文章になるというのが、韓国語が日本語を母国語とする人にとって学習しやすい言語と言われる理由です。

韓国語を書くための文字であるハングルは、私たちにとってあまりなじみのある文字ではないため、初めは丸や四角の記号にしか見えないかもしれません。ですが、たとえば「キムチ」をハングルで「김치」と書きますが、ㄱ=k、ㅣ=i、ㅁ=m、ㅈ=c h、ㅣ=i という子音と母音によって構成されています。ですから、それぞれの文字が何の子音・母音であるかを覚えてしまえばハングルを読むことはそれほど難しくありません。

韓国語は韓国、北朝鮮だけでなく、中国、ロシア、アメリカ、日本、オーストラリア、ウズベキスタン、カザフスタンなどにいる在外韓国人によって話されています。みなさんが、海外留学をしたり、海外旅行をしたりしたときに韓国語を身につけていることで、そこで出会うこれらの人々とのコミュニケーションが可能になります。実際に海外留学した際に、同じアジア人である日本人と韓国人、在外韓国人留学生との交流は大変多いのです。そこでそれぞれの国の言葉を教え合い、食習慣や生活習慣を学んで、日本とよく似ている点や、似ているようで違う点を知り、韓国語や韓国に興味をもったという人がとても多いのです。

言葉を知るといえるのは、その国の人・文化を知ることです。韓国語を学んで世界を広げてみませんか。

～選択必修外国語の紹介～

タイ語について

よそ大学や学部でほとんどやっていないことに挑戦してみませんか。タイ語を第二外国語として選択可能な総合大学の学部は珍しいはずです。その経験を自分の強みとしてアピールできるようにできるかどうかは、もちろんみなさん次第です。楽をしたいただけなら奨めません。タイはASEANの中心的な国であり、多くの日本企業が拠点を置いています。また、本学部ではタイとの交流機会がいくつもあります。日本の社会や文化に興味を持ち明るく楽しく意欲に満ちたタイとの学生たちとの交流は、とても楽しく刺激的です。タイに留学した先輩には、東南アジアで活躍する外交官やビジネスマン、政府機関で働く人たちもいます。彼らの多くはこうした機会を積極的に活かしてきた人たちです。

タイ文字はこんな感じで「こんにちは 明治(サワッディ・メージ)」と書いてあります。

สวัสดี เมจิ

アルファベットと全く違う文字で難しそうだと感じたかもしれません。しかし、日本語を考えてみてください。みなさんは膨大な数の文字を使いこなしています。大切なのは着実さだけです。インドシナ半島の国々の言葉の多くはアルファベットとは異なる文字を使います。言葉によるコミュニケーション能力の幅を広げられるかもしれません。

文法的には人称や時制による語形変化のないシンプルな言語です。ただし、発音には中国語などと同じように声調があります。また、日本語にない母音、有気音・無気音の区別など発音の違いもあるので、最初は戸惑いを感じるかもしれません。しかし、心配はいりません。担当の教員は日本語が堪能なタイ人で、授業はみなさんの理解に応じてじっくり着実に進めてくれます。日々の学習を着実にこなせば大丈夫です。

本学部はタイの大学と双方向の交流プログラム(「国際交流(タイ)」)を実施しています。毎回約20名の学生が夏休みにタイの大学に行き、現地で日本語を学んでいる学生たちとグループワークなどを通じて、タイの社会や文化を学び、日本との違いについて考えることができます。なによりも海外に親しく付き合える友人を作ることができます。タイとの国際交流プログラムに参加して楽しさを知り、2年生からタイ語を学び始める学生もいます。

タイの人は日本人に好意的でとても親しく接してくれますが、私たちと全く考え方が異なるところもあります。異文化に触れる絶好の機会です。タイ語を履修したら、ぜひ国際交流にも参加しましょう。そしてタイ語を実践してみましょう。

さらに、タイは滞在費が安く、本学部の学生の長期の留学先としても人気があります。学部間交流協定を利用して、例年 2～3 名の学生が留学しています。この場合、授業は英語で受けることとなりますが、日常生活でタイ語が使えると留学生活もより充実したものになるでしょう。



国際交流(タイ)

～英語プログラムの紹介～

情報コミュニケーション学部「英語コミュニケーション能力特別強化プログラム」

SPICE (Special Program for Information & Communication in English)

皆さんが英語を学ぶ理由は、何ですか？

「外国の人と自由に会話をしたい」や「将来、海外で仕事をしたい」など、さまざまな理由があると思いますが、英語力を高めるには、アウトプットとインプットの両方のスキルを磨くことが必要です。

グローバル化が進む現代では、直読直解や会話以上の内容を議論できる能力が求められています。本学部では、国際社会に対応できるスキルの習得に向けた、**独自の特別英語クラスである「SPICE(スパイス)プログラム」**が設置されています。この SPICE は 20 人程度の小規模クラスで、英語でコミュニケーションができる学生、そして海外の大学・大学院への留学や国際社会で活躍できる人材の育成を目指します。

特徴は**次の 2 つ**です。

- **コミュニケーション能力重視・内容中心の授業**

英語でスピーチ・ディベート・ディスカッションができるトレーニングを行います。会話のためのコミュニケーションに限らず、専門的な科目を**英語で**学ぶための講義も用意しています。

- **経験豊かな教員による少人数制の授業**

選抜された少人数の学生に向けて、ネイティブ・スピーカーや海外留学経験のある教員による実践的な授業を行います。授業中だけでなく、自習時間の指導についてもホームワークを効果的に取り入れます。

What is SPICE?

The goal of the SPICE program is to build students' English proficiency to advanced levels so that they can communicate in authentic situations such as studying abroad and working in multicultural settings where English is used as a lingua franca.

In the first two years, students focus on developing fluency with their language skills and building their academic English abilities through essay writing, reading, and advanced discussion. Finally, in the third year of the program, students complete group and individual research into advanced aspects of English communication. These experiences aim to provide learners with the ability to improve their English skills independently in their fourth year and beyond graduation so that they can be life-long language learners!

少しでも興味があれば、**SPICE 説明会動画(詳細は後日案内)**をチェックしてください！